

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 藤の実会

## 社会福祉法人 藤の実会 基本理念

- 一、私達は、ご利用者の方々が明るく清潔な環境のもとで、  
穏やかに安心して過ごしていただけるように努めます。
  
- 一、私達は、この職場でご利用者との交流を通じ、人間形  
成に努めます。
  
- 一、私達は、地域に根ざし、福祉の輪が大きく広がるように  
努めます。

## 令和2年度 事業報告（法人）

今年度はどこの施設でも同様ですが、コロナ対策に明け暮れた1年でした。

特養入所者には家族との面会制限、ケアハウス入居者には外出制限や食堂での時間をずらして2部にしての黙食等、厳しい日々を過ごしてもらいました。職員も館内の消毒はもとより、コロナ対応と外出・外食を控え、感染予防に努めました。結果、当法人では感染者ゼロで抑えられました。

上半期は、マスク等の品不足は避けられたものの、試行錯誤の対応でしたが、下半期には感染防止グッズも揃い、感染症対策委員会を中心に対応することができました。

来年度も気を緩めることなく感染対策を徹底していくとともに、より一層、利用者に目を向け、介護や支援に努めてまいります。

### 1. 重点目標に対する取り組み

重点目標	取り組みと評価
キャリアパス推進に向けて	キャリアパスにおける評価制度の在り方について、社会保険労務士のサポートのもと、年間で計画を立て、実施した。 4月 年間計画の作成、社会保険労務士との研修打ち合わせ 6月～12月 理事4名（理事長・管理者）研修実施 （仕事調べ、キージョブ、評価要素、課題抽出、等級表・評価表作成、評価方法） 2月 改訂した評価表をもとに職員面談を実施  令和3年度より手直しを行いながら、本格的な運用を目指す。
段取り力を身につける	各事業所毎に取り組みを行ったが、コロナ禍で法人全体での会議や事業所間の連携が図りづらい状況もあり、法人としてその成果を検証するまでに至らなかった。但し、コロナウィルスに係る感染症対策等を通して、「段取り」の大切さを改めて理解できた。
地域貢献・地域交流活動	コロナ禍のため、七樹苑・にじの森祭りやさくらウォーキングフェスタ等、法人の地域交流事業は中止。地域主催の事業やイベントも同様に中止された。前年度より準備をすすめていた子ども食堂も中断されるカタチとなったが、その間、地域役員や支援企業との打ち合わせを重ね、留守家庭へのおやつ配付や親子支援弁当の配付を実施した。地域住民の自主活動グループ（体操）への職員派遣については、感染状況が一時的に落ち着いた際に再開する等、地域住民との関係性が途切れないように努めた。

### 2. その他の取り組み

#### （1）なのの樹キッズハウスの運営について

近隣に保育園が立て続けにでき、なのの樹キッズハウスの運営が厳しい状況となったため、福岡市役所と協議を重ね、本年度をもって閉園する運びとなりました。

以下は閉園に至るまでの経緯を簡単にまとめたものです。

- 令和2年5月 幹部会議にてななの樹キッズハウスの運営に関しての話し合い  
福岡市役所に相談（閉園を含め検討している旨を伝える）
- 8月 市役所に閉園の意向を伝え、閉園要望書を提出  
数回の市役所との協議
- 9月 市役所より閉園について了承を得る
- 10月 閉園に向けて在園児父兄説明会を実施
- 11月 職員面談実施  
（所長のみデイサービスぬくもり管理者として残ることになる）  
理事会にて閉園及び定員変更について承認を得る  
定員変更要望書提出
- 12月 市役所へ閉園願い書を提出
- 2月 定員変更要望書再提出
- 3月 閉園

## （2）経理体制の見直し

経理体制の見直し

8月に税理士事務所と打ち合わせを行い、9月より毎月、月次報告と社会福祉法人会計のレクチャーを内部理事4人で受けております。令和3年度より、従来からの行政書士事務所から税理士事務所に移行準備を行っております。

## II 会議、法人行事等

### 1. 評議員会

令和元年度計算書類及び財産目録の承認  
令和元年度事業報告  
令和元年度監事監査報告  
社会福祉充実残額の算定結果の件  
令和2年 6月（書面）

### 2. 理事会

第1回 令和元年度事業報告（案）  
令和元年度収支決算報告（案）  
定時評議員会招集の件  
令和2年 5月（書面）



- 7月 七夕茶会 (9日)、)
- 8月 だんらんお泊り会 (中止)  
喫茶トロッコ (19日) (ケアハウス、デイ)  
特養ミニ夏祭り (21日)
- 9月 敬老祝賀会【内部開催】(19日)、寿喫茶 (中止)
- 10月 喫茶トロッコ (8日) (ケアハウス、デイ)
- 11月 市老施協・作品展 (中止)、  
喫茶トロッコ (12日) (ケアハウス、デイ)  
第2回防災講習／避難訓練 (24日)  
お楽しみメニュー (26日)
- 12月 クリスマス会 (25日)、餅つき大会 (中止)
- 1月 新年祝賀会 (1日)、獅子舞 (中止)、初釜 (7日)
- 2月 節分の豆まき [紅葉八幡宮成年会] (中止)  
お楽しみメニュー (3日)  
喫茶トロッコ (10日) (ケアハウス、デイ)
- 3月 ひな祭り茶会 (4日)、  
お花見会【ケアハウス・デイ (23日)、特養 (30日)

### Ⅲ 特別養護老人ホーム 七樹苑

#### 1. キャリアパス推進に向けて

##### (1) 技術の向上

介護技術の評価については、機能訓練指導員を中心となり、介助者の身体的な負担を軽減できる方法や入居者が安全で安心して介助を受けられる方法などの指導を行いました。

一般職員と指導者である職員（リーダーや主任等）で定期的な面談を行うことを目標に掲げておりましたが、十分な時間を割くことができず、実現できませんでした。次年度の課題として検討したいと思います。

また、事故の再発防止については、事故発生時に関わった職員だけでなく、多職種の職員で検証し、根本的な事故原因の究明や介護技術や環境の改善などを検討することができました。また、各ユニット会議においても、他ユニットで発生した事故の報告を併せて行い、事故内容や対応策の共有を図っております。年間の事故件数としては、昨年度に比べ61件の増加となっており、取り組みによる効果が得られるには、更に検証を続ける必要があります。次年度に向け、令和2年度の事故統計を取り、各ユニットに配布することで、類似した事故の軽減を図ると共に各ユニットでの事故防止策に役立てられるよう取り組んでいきます。

##### (2) 指導担当者の育成

入職者の育成については、指導担当者が育成スケジュール作成し、業務の習得状況に応じてスケジュールや指導方法の見直しを行いながら、実施しています。また、入職して1ヶ月後・3ヶ月後に介護主任、施設課長、施設長が面談を実施し、習得状況の把握を行うと共に、本人の意向等が伝えられる機会を設けています。

指導方法を標準化するために介護技術マニュアルを見直し、その内容に沿った指導が徹底できるように改善しましたが、有効に活用している状況ではないため、今後は動画や写真などを多用して、より活用しやすいマニュアルとなるよう更に改善していきたいと思います。

##### (3) 効果的な研修の実施

令和2年度は、コロナ禍のために外部の研修に参加することがほとんどできませんでした。一方で、オンラインでの研修に参加する機会は徐々に増えてきています。今後はそういった形式の研修も積極的に活用できるよう環境も整えながら、介護・看護職員に研修機会を多く設けていきたいと思っています。

また、内部研修についても、同様の理由にて法人全体で例年実施していた研修が開催できませんでしたが、事業所内の会議の中で各職種で分担して研修内容を企画し、実施しました。今まで内部研修の多くは、法人全体で企画したものを受講する機会が多かったことで、本年度、事業所独自で企画・実施する機会を設けたことは、職員にとって新たな気付きや良い刺激になったと思います。来年度も継続して開催していきます。

#### 2. 段取り力を身につける（効果・効率）

職員各自が、指示待ちにならずに自ら考えて行動できるように、ユニット毎に月間目標を立て、取り組みました。また、業務の効率化を図るため、各マニュアルの見直し・作成を行いました。今後、より実用的なマニュアルを改善していきたいと思っています。

日々の業務の中では、職員各自が「連携」を意識し、お互いに声を掛け合う機会が増えてきており、

職種を問わず協力し合うことで効率よく業務を進めることができたと思います。給食部門についても、委託業者との業務マニュアルの見直しを行い、作業工程表を変更することで、より衛生的で安全な食事提供ができるようになりました。

### 3. 地域貢献・地域交流活動

令和2年度は、コロナ禍のために外部への職員派遣が困難な状況でしたが、その中でも、地域住民や地域介護ネットワークグループの他機関との関係性を継続することで、社会の感染状況が一時的に落ち着いた際に、職員を派遣することができました。今後も地域との関係を継続していき、感染症対策を講じたうえでできるだけ地域の活動などに協力していきたいと思います。

### 4. 看護・介護連携

看護職員のPC入力作業等の場所を介護スタッフのコーナーの中に変更するなど、看護・介護職員が接する機会を多く持つことができる環境に変え、看護職員各自が担当ユニットを持つことで、介護職員が相談しやすく、効率的な伝達等ができるようになりました。また、介護職員に対して医療に関する研修を行い、専門的な知識も深められたと思います。

### 5. 専門職に基づいた援助

#### (1) 重度化の対応

##### ① 体調管理

嘱託医との連携においては、電話による報告だけでなく、画像やWebを活用するなど、できるだけ多く情報・状況を提供できるように心掛けました。その結果、施設での治療方針が明確になり、病院受診等もスムーズに行えたと思います。

##### ② 医療的ケア

介護職員による喀痰吸引もについては、本年度より、登録特定行為事業者から特定登録喀痰吸引事業者の指定を受けることができたため、施設内にて喀痰吸引実地研修を実施し、2名の認定従事者を増員することができました。また、認定従事者には定期的にフォローアップ研修を実施することで、技術向上を図れたと思います。

##### ③ 看取り介護

令和2年度は、9名の看取り介護を行いました。徐々に身体機能が低下してきた際には、ご家族と嘱託医との面談を行い、身体状況の変化の説明や治療方針の確認などを複数回に渡り行いました。また、ご家族に改めて嗜好品や趣味などを聞き取り、その方らしい最期を迎えられるように支援しました。

##### ④ ADLや疾病に応じた食事

定期的な体重測定や食事摂取量を基に栄養状態のPDCAサイクルを行いました。嘱託医との連携を図り、糖尿病や腎臓病等の既往歴のある方々については、定期的にフォローを行い、食事内容の検討を行い、疾病の悪化防止に努めることができました。経管栄養の注入方法についても看護職員と協議し、胃食道逆流による嘔吐などのリスクを最小限に抑えられよう改善を図りました。

##### ⑤ 認知症ケア

月に1回の認知症ケアワーキングを開催し、専門ツールを使用した勉強会や入居者の事例などの



検討を行いました。ワーキングチーム内での認知症ケアに関する認識を深めることは出来ましたが、ワーキングチーム以外の職員に広めることが出来なかった。今後、特養全体で認知症ケアを学べるようにワーキングチームで発信していきます。

## (2) 日々の生活支援

日々の食事においては、季節感や彩りなどに配慮した献立作成に努めました。また、月1度の苑内喫茶や行事食をはじめ、少人数を対象に趣の異なる食事の提供を行い、入居者の方々に喜んでもらいました。

機能訓練においては、機能訓練指導員が中心となり、機能訓練の実施・評価を行うとともに、外部機関の理学療法士と連動し、その方にあった実用的なリハビリを計画・実施することができました。環境面では、入居者が安全に過ごしていただけるようにホールや居室などの環境を多職種で検討し、機能性・実用性を考えた環境作りに取り組むことができました。また、季節にあった飾り付けを行い、館内においても季節を感じるできるように努めました。

## 6. 短期入所生活介護サービス

### (1) 認知症利用者への支援

認知症の周辺症状のある方に対して、職員が話を傾聴して不安などが解消できるように努めることができました。今後は認知症に対する理解を深めるため、対応等のマニュアルを作成し、質の高い支援ができるように努めたいと思います。

また、各ユニットの職員とショートステイ担当職員がこまめに自宅の状況や施設での過ごし方などの情報交換を行い、生活習慣にあった個別ケアができるように支援を行いました。

### (2) 在宅での介護負担軽減へ

機能訓練指導員を中心に利用者の身体状況・介助方法などを画像で確認したり、実践等を行いながら、その方にあった対応方法などを施設内で検討し、家族や介護支援事業所へ情報の提供を行い、情報の共有を図ることができました。

## IV 七樹苑デイサービスセンター

### 1. キャリアパス推進に向けて

#### (1) 基礎的な介護技術の向上

今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、デイサービス会議の時間を短縮して実施しました。そのため、計画していた理学療法士による講習の時間は設けず、手すりの使い方や体を支える位置等、毎月短時間で検討する方法で行い、利用者の自立に向けた支援を意識して行うことに努めました。利用者への言葉かけについては、周囲にも聞こえるような声でトイレの声掛けや、友達言葉になる場面があり、まだまだ改善が必要と考えます。会議内やその都度、指導を行い、配慮ある言葉かけで支援できるよう努めていきます。外部研修についても、新型コロナウイルスの影響で参加できませんでした。来年度は状況を見ながらウイルス対策を行い、可能な限り参加できるよう計画し、介護技術の向上に努めていきます。

## (2) 指導担当者の育成

マニュアルの修正を行っていましたが、指導担当者が退職となり見直しは全てを終了することができませんでした。マニュアルは来年度も引き続き修正を行っていきます。

退職までの間で、経験の浅い職員が業務を覚えられるよう、意見交換を行う機会を持ち苦手な業務の把握、それに対する助言を行うことができました。また、担当者から他スタッフへも申し伝え、ばらつきのない指導を行うことができました。業務分担表については、毎朝出勤時に確認する習慣が身につく、その日1日の業務を把握し、順序立てて行動することができるようになってきています。

相談員業務については、4月から初めて相談員となった職員に業務の申し送りを行い、主の相談員が不在の時も滞りなく業務を遂行できるようになりました。現在は業務の分担も行えています。研修については、今年度参加できなかった指導的職員研修への参加を計画します。

## 2. 段取り力を身につける（効果・効率）

### (1) 業務の円滑な遂行

出勤後、業務分担表を確認し、1日の担当業務を把握するようにし、ほとんどのスタッフは担当業務だけに縛られず他職員の状況を見てサポートに入ることができています。

しかし中には、目の前のことに集中し過ぎ、周囲の状況が見えなくなるスタッフもいるため、その都度相談員から、状況を確認し優先順位を判断して業務にあたるよう指導を行っています。行事計画について、年度初めに年間計画を立て、それに沿って毎月の予定を作成し利用者にも配布しています。新型コロナウイルスの影響で、大きな行事は行えませんでした。ドライブやミニ夏祭りなど、感染症対策や必要物品、経費を織り込んだ計画を立て安全に実施することができました。

## 3. 地域貢献・地域交流活動

### (1) 地域貢献活動の継続、活性化

新型コロナウイルス感染防止及び蔓延予防の観点から、集団で活動している演芸ボランティアの受け入れは中止しました。しかし、少人数で来苑される音楽療法については、感染症委員会で福岡市の感染状況を見て受け入れを行うか判断しました。受け入れる際は感染対策として、来苑時ボランティアの検温と手洗いを実施し、音楽療法中はボランティア、利用者ともマスクを着用して行いました。作品については、春祭りに向け折り紙を使用した箸袋を作成していましたが、春祭りも中止となったため、行事食の際や、レクリエーションの景品として使用しました。認知症キッズサポーター等の活動も中止され、地域に出向いての活動を行うことはできませんでした。来年度も感染対策をしっかりと行いながら、地域貢献活動に取り組んでいきます。

## 4. 機能訓練の充実

### (1) 利用者の意欲向上と家族の介護負担の軽減

今年度は、新たな運動器具としてプーリーを導入しました。それにより、肩、肩甲骨のストレッチが行えるようになり、入浴時の洗身動作や衣類の着脱動作の改善に繋がっています。また、利用者には使用している運動機器の効果や実施している機能訓練の目的を、個別機能訓練計画書を通じて説明し、納得頂いた上で訓練を進めることができます。また、毎月のデイサー

ビス会議の中で、各ご利用者の機能訓練に関するアセスメントを行い、そこでの意見をケアや機能訓練に活用することができています。

家族へは連絡帳を活用し、その日実施した機能訓練内容の報告や、場合によっては訓練風景の写真や自宅でも行える運動の資料をお渡しし、デイサービスが無い日も自主訓練を行って頂けるような支援を行うことができました。それにより、機能向上を意識される利用者も出てくるようになり、休み明けに見られる機能低下を最小限に留めることができるようになってきました。今後も、利用者、家族を巻き込んだ機能訓練を提供していきます。

## V デイサービス めくもり

### 1. キャリアパス推進に向けて

効果的な研修の実施に関し、外部研修は新型コロナウイルスの影響もあり中止となることが多く参加できませんでした。また下半期は職員の長期休職も重なってしまい日程調整ができませんでした。内部研修は勤務終了後に行っていた為、常勤職員のみ参加となってしまう非常勤職員まで実施できていませんでした。

自己評価・上司評価に関し、両者の評価に乖離がありました。特に差がみられた項目は接遇面で、敬語の不使用や声量が大きすぎる等改善が必要でした。該当する職員へ指導を行いましたが、時間の経過とともに意識が薄くなる傾向にあり、定期的な指導が必要だったと考えています。

目標設定に関し、各職員の評価に沿って指導を行うことができました。しかし、指導内容を継続して実行できていない職員もおり、定期的な指導が必要だったと考えています。

### 2. 段取り力を身につける

上半期は打ち合わせ、事前準備を行い、余裕をもって業務を行うことができていましたが、下半期は利用者の増加と職員の休職が重なってしまい、事前準備等は問題なく行うことが出来ましたが、打ち合わせ通りに業務（特に体操やレクリエーション等を予定時間に実施すること）を実施することができませんでした。

### 3. 地域貢献・地域交流活動

民生委員と地域カフェ、体操教室の日程調整を行っていましたが、いずれも実施することができませんでした。

### 4. 新たなサービス提供への取り組み

機能訓練に関し、開始当初は慣れない業務の為、時間がかかっていましたが、徐々に円滑に実施することができるようになりました。機能訓練指導員（看護師兼務）の半日勤務の日は、介護職員が業務のフォローを行い、職員全体でサービスを展開することができました。個別機能訓練は利用者、家族からの反応もよく個別機能訓練加算Ⅱの算定者を利用者全体の8割近くまで増加させることができました。

## VI 七樹苑ヘルパーステーション

### 1. キャリアパス推進に向けて

#### (1) 介護技術の向上

介護技術の外部研修や内部研修また、カンファレンス等の開催が新型コロナウイルス感染症対策の為、制限や中止となり、ヘルパー全体での情報共有や指導などが難しい状況となりましたが、現場状況のアンケートを3ヵ月に1回、実施しました。対応方法で困っていること、困難なことなども挙げてもらい、その内容から事例として、資料を作成し、個々の指導にあたりました。また、少人数で「ヘルパー事業所の運営基本」「ヘルパー業務の基本」「社会人としてのマナー」の研修をヘルパー全員に実施しました。今回、時間は、要しましたがヘルパー1人1人と向き合うことで、その方の特性や不安を知ることができ、サービス管理責任者としてのヘルパーとの関係や利用者への細かなサービスと工夫と一緒に学ぶことが出来ました。また、後半は、オンライン研修に参加することができスキルアップを図ることが出来ました。今後も、多様な方法で、技術の向上を目指していきます。

#### (2) 指導担当者の育成

ヘルパーから現場の指導者として活動できる方をリーダー的ヘルパーとし、サービス提供責任者と定期的にサービスの評価や相談を受け、課題の改善に向けて勧める事が出来ました。また、ヘルパーカンファレンス時にリーダーが主となり問題提起し、ディスカッションを行うことが出来ました。コロナ禍にて通常のカンファレンスが行えず資料のみということもありました。今後は、適応力を意識した育成に努めていきます。

### 2. 段取り力を身につける（効果・効率）

1日の業務がスムーズに終了できるように、事前の準備と確認を毎日行ったことで日々の段取りが身につけてきました。また、ヘルパーが急な休み等で、突発的なサービス代行が発生した場合、他の業務が停滞しないように、時間配分と再確認を行い責任者が分担で効率よく勧めることが出来ました。今後は、他のヘルパーにて代行業務が行えるようサービスの共有、責任者からの実施指導、見直しを出来るようにしていきます。

### 3. 地域貢献・地域交流

感染蔓延防止の為、イベントや交流機会の活動が、厳しい状況でした。その中でも積極的に自費サービスでの通院同行、買い物同行を取り入れることが出来ました。今後も、地域の方の支援に繋がるように努めていきます。

## VII 七樹苑ケアプランサービス

### 1. キャリアパス推進に向けて

#### (1) 介護支援専門員としての技術向上

年間計画していた外部研修は、新型コロナウイルス感染防止に伴い実施することができませんでし

た。法定研修については、部署内で行い得られた知識や技術をさらに深めケアマネジメントの向上につながるよう努めました。また、利用者や家族、関係事業者との信頼関係を深めることもでき、施設からの新規依頼が増え実績にもつなげることができました。次年度は、オンライン受講などに積極的に参加し専門的知識を身につけ、コミュニケーション能力の向上に努めていきます。

## (2) 指導者担当の育成

ケアマネジャー4人中、3名は、9年、10年以上の実務経験者で指導が出来る人材です。その為、指導者の新人育成にバラツキがないように、新人育成のマニュアルを指導に当たる3名で再検討し、見直しを行いました。また、毎週行う居宅会議の項目ケースカンファの中で、ケアマネジメント力を身に付けてもらえるように新人ケアマネジャーに助言、サポートを行い、指導者間の共有も図ることが出来ました。

## 2. 段取り力を身につける（効果・効率）

週、月単位で業務スケジュール管理を行い、日々の時間配分ができ効率を図ることができました。利用者、家族からの相談等にも迅速に対応することができました。突発的な新規依頼については、日頃の業務の整備や管理が出来ていたことで、迅速に依頼を受けることが出来ました。新人ケアマネジャーには、進捗状況等を確認し本人、家族、制度などから業務の優先順位をつけ効率よく業務を進めていくアドバイスを行うことが出来ました。

## 3. 地域貢献・地域交流活動

新型コロナウイルス感染予防のため地域で行われる活動は、殆ど中止となり参加はできませんでしたが、次年度は、活動の工夫を行い地域に貢献していきたいと考えています。

# Ⅷ ケアハウス にじの森

## 1. キャリアパス推進に向けて

### (1) 介護技術の向上

新型コロナウイルス感染症の影響で、外部研修や法人内の研修が殆ど中止となり、参加することが出来ませんでした。今年度は、特に入居者への「言葉かけや個々に沿った対応について」評価し、検討を重ね、実践を繰り返して行ってきました。その中で、個々の生活の大切さと共同生活の和を保つことの難しさに直面したことが職員の学びになり、ステップアップに繋がったと思います。また、新入居者の持病等を把握するため、ケアハウス内の会議で、「高次機能障害・膀胱癌・てんかん」についての研修を行い、職員間で共有を図ることが出来ました。今後は、入居者の支援や処遇についてのアンケートを実施しより良い支援に繋げ職員の技術の向上に繋げて行きたいと考えています。

## 2. 段取り力を身につける

今までの業務や行事分担について見直しを行いました。役割分担を明確にしたことで事前準備を分散して出来るようになりました。また、作業手順の確認が出来るようになり、正確に重複なく業務を進めることが出来ました。感染予防対策を踏まえての食事や行事については、通常と違う形で人

数と時間の制限を行い2部に分けて実施しました。最初は、職員の戸惑いもありましたが、役割分担を明確にしたことで各職員の事前準備がスムーズにできました。役割が明確な計画書と事前打ち合わせを行う事で、職員の段取り力のアップに繋がりました。

### 3. 地域貢献・地域交流

感染症の影響で、地域交流は殆どできませんでしたが、地域の方に喜んでもらえるように、道沿いの花壇の花植えやゴミ拾いを実施しました。感染症予防の制限緩和の際、面会を庭で行うことが出来ました。入居者の方は、勿論ですがご家族の方や近隣の方が数名ですが庭での一時を楽しむ事が出来ました。

今後も、地域との交流を持ち、社会生活が送れるように支援します。また、地域貢献が出来るようアイデアを出し合い小さな事から初めて行きたいと考えています。

### 4. 安定した生活の確立

高齢化により、徐々に身体機能の低下や認知症状など、介護サービスが必要な方が増えてきました。個々の安定した生活を支援するために、入居者の心身の状況把握に努めました。特に、食事摂取量で、体調の変化を気付くことが多くありました。身体機能維持、向上を図るため、食堂でラジオ体操を毎日行う予定でしたが、週2回に変更し実施する事にしました。また、ラジオ体操カードを作り、参加を促しました。感染症の影響で、外出ができずストレスになっている入居者へは、少人数でのドライブや散歩・手芸等で気分転換を図って頂きました。また、食堂に、季節ごとの飾りつけを行い、1月には「にじの森ギャラリー」として展示会を実施しました。居室の設備等の点検も、3ヵ月毎に実施し快適に過ごせるよう努めました。今後も、安全に、安心して生活が送れる様に支援していきます。

## Ⅸ 放課後等デイサービス だんらん

### 1. キャリヤパス推進に向けて

#### (1) 支援技術の向上

当初、予定していた研修が新型コロナウイルスにより中止になり研修機会が減少したため、だんらん内部で昨年の研修資料を用いて、障がい特性の理解、適応行動分析の理解などを深めました。その結果、職員が何を理解できていなかったかを把握でき、職員間の共通理解、支援や意思の統一に繋げることが出来ています。その他では年に2回児童虐待研修、人権擁護についても内部研修を行っています。

又、ヒヤリハット・事故に関しては大きな事故やトラブル等がなかったものの、ヒヤリハットは多くあったにも関わらず、ヒヤリハット報告が少なく改善点も見られました。

今後はリモート研修などにも積極的に参加できる環境づくり、事故が起きる前のヒヤリハット報告書をしっかり提出し、事故防止に努めていきます。

#### (2) 指導担当の育成

新人指導において、人員不足だったため、思う様な指導ができず、業務、利用者対応に戸惑いを与えた事がありました。対応として業務開始前・業務終了後にミーティングを行い改善しております。現在は人員も揃ってきているため、しっかりとした新人研修を行い職員育成に努めていきます。

## 2. 段取り力を身につける（効果・効率）

利用者・行事担当を前年度担当よりしっかり引継ぎを行い、準備・開始が出来ており、わからない事や困った事があると管理者、前担当に確認することが出来ています。又、会議にて現場での効率の良い方法を全職員で意見を出し話し合うことが出来ており、臨機応変な事に対しても対応が出来ました。

今後も話し合いの場を多く設け、職員の意見を多く取り入れていけるように努めていきます。

## 3. 地域貢献・地域交流活動

予定していた地域貢献活動・地域交流活動はコロナウイルス拡大のため中止となっております。唯一地域のごみ拾いに参加しております。

今後、コロナウイルスの状況を把握し地域貢献・地域交流活動に参加できるように努めていきます。

## 4. 広報活動の実施

コロナの影響により入学前の学校や保育園の訪問、11月学校公開日等が中止になり、営業活動が出来ない状態になったため、相談事業所に連絡やパンフレットを郵送するなどして対応しました。契約に関して4月1件、6月1件、9月1件、11月1件の合計4件。利用者数は多く稼働率は安定していますが、新規契約数が少ない結果となっております。

今後も営業活動に力を入れ見学、体験、契約に繋がるように努めていきます。

## 事業報告の付属明細書

令和2年度事業報告書の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の付属明細書は作成していません。

社会福祉法人 藤の実会  
理事長 大木 麻美子